

# 国際ガラスデータベース構築にかかわった方々への謝辞

国際ガラスデータベース構築委員会  
データ抽出分科会主査  
旭硝子(株)開発本部主幹技師

鈴木 由郎



国際ガラスデータベース“INTERGLAD”の構築は本当に多数の方のご協力によって完成したものである。データベースの構築のプロセスは表1に示すように進められたが、いまその事情を振り返って見る。

ガラスデータベースの話が持ち上がったのは、1986年に通産省窯業建材課から調査を依頼されたのがきっかけである。この分野をかねてから研究されていた東京大学生産技術研究所の安井教授を委員長としたデータベース調査委員会が設けられ、調査研究が行われた。この結果を踏まえて、1987年にはさらに大掛かりな調査の委託を通産省から受け、京都大学化学研究所の作花教授を中心としてデータベースのシステム、サービス方式、コスト等の検討がなされた。

以上の予備調査を終え、ガラスのファクトデータベースの実用的価値は高く、また実現可能性も

大きいことが分かった。当時の通産省窯業建材課の和田課長の熱心な要望に賛同して、古本前会長がINTERGLADの構築をニューグラスフォーラムの事業として進めることとした。1988年には運営委員会で本データベースの企画と資金計画が論議されたが、古本前会長の努力でデータ抽出に対する理事会社の奉仕と、会長・副会長会社からの資金融資が決り、構築は具体的に進捗する運びとなった。事務局には本プロジェクト専任に旭硝子から成沢氏と西岡氏が配置され、森川専務理事とともに取纏めに当ることとなった。また旭硝子の内野氏を委員長とする国際ガラスデータベース構築委員会(表2)が発足し、システム開発ワーキンググループ(安井主査)(表3)とデータ抽出ワーキンググループ(鈴木主査)(表4)の二つのワーキンググループがシステムとデータ抽出についてそれぞれ作業を進めた。データベースの国際性を重んじ海外企業の意見を取入れるとの趣旨のもの

Table 1 国際ガラスデータベース構築プロセス

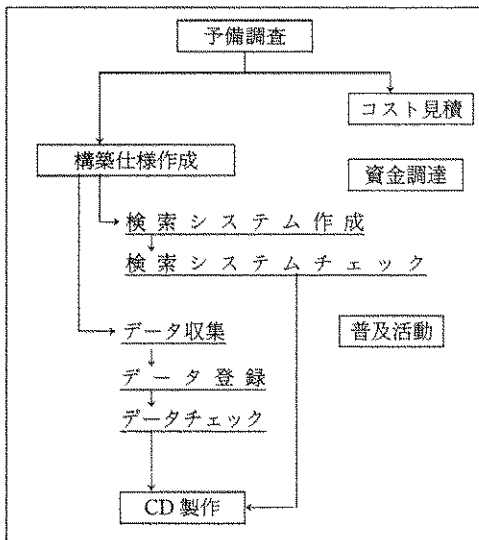


Table 2 国際ガラスデータベース構築委員会

委員長	内野 哲也	旭硝子
委員	(機関名の50音順。( )内は前任委員)	
	鈴木 由郎	旭硝子
	二宮 敏彰 (山田 弘明,	コーニングジャ
	小西 和之)	パン
	坂口 清志 (芦野 豊)	ショット日本
	浦野 章	住友電気工業
	上村 宏	セントラル硝子
	安井 至	東京大学
	木戸 一博 (磯部 司郎)	ニコン
	水島 英二 (入江 正教)	日本板硝子
	桃井淳一郎	日本電子硝子
	西島 昭	HOYA
	西野 敦	松下電器産業

Table 3 システム開発ワーキンググループ

主査	安井 至	東京大学
委員	(機関名の50音順)	
	高田 章	旭硝子
	本田 省一	三洋電機
	青木能理顕	セントラル硝子
	板垣 幸雄	大日本印刷
	新沢 健一	日本アイビーエム
	白田 耕作	日本電気
	酒井 正純	富士通

Table 4 データ抽出ワーキンググループ

主査	鈴木 由郎	旭硝子
委員	(機関名の50音順。( )内は前任委員)	
	河口 年安	旭硝子
	二宮 敏彰 (山田 弘明, コーニングジャ 小西 和之)	パン
	坂口 清志 (芦野 豊)	ショット日本
	浦野 章	住友電気工業
	上村 宏	セントラル硝子
	木戸 一博 (磯部 司郎)	ニコン
	水島 英二 (入江 正教)	日本板硝子
	若木 純造	日本電気硝子
	田中 孝彦 (戸田 精一)	HOYA
	西野 敦	松下電器産業

と前会長の尽力でコーニングとショットに委員会に入っていた。

構築の作業はまず仕様の作成から始まった。ワーキンググループでは盛り込むべき内容、単位の問題、数値表示できないもの、データの質等の問題が論議され、方向付けがなされた。ガラス番号に意味を持たせることも発案された。システム的には複数のパソコンとの整合が決められ、また仮想的設問による縦横斜めからの検索の方法が論議された。

こうして仕様が決まると、データ抽出が始まった。データブックや特許、カタログは比較的抽出しやすいが、学術雑誌は高度の技術的素養のある人に頼らなければならない。表4の他に表5に示

Table 5 抽出作業担当

小林 紀男	石塚硝子
新井 敦	佐々木硝子
新保 優	東芝セラミックス
山本勝三郎	日東紡績
真田 和夫	藤倉電線
松田 美一	古河電気工業
栗林 秀行 (小野 博之)	山村硝子
データ抽出ワーキンググループ委員	

(機関名の50音順。( )内は前任担当者)

すように各社に代表の方を置いて、各種の雑誌を分担していただき、抽出に当たった。従ってここに名前が出ていない多くのかたがたにも抽出作業をしていただいたことをここにお礼申し上げる。抽出は約1年で予定どおり完了した。生データは事務局でチェックされ、さらにコンピュータにインプットされたデータもチェックされ、正確さに対する出来るかぎりの努力がなされた。また国内外のメーカーから多数のカタログが寄せられ、コマシャルガラスデータの収集としてもまずまずのものができたと考えている。

なおデータブックのデータは精選されており、信頼性が最も高く、かつきちんと整理されているのでデータ収集には最も有効であった。これらのデータを利用することによって歴史のあるガラスのデータも短期間のうちに集めることができた。データブックの著者に心からの感謝をする次第である。

大日本印刷はCD-ROMの経験を全部出して、縦横斜めからの検索に対応するソフト作成に絶大な協力を惜しまなかった。最後にデータ抽出のために役立った、通産省の補助によるデータブックの作成、データ提供に快く賛同いただいたデータブックの出版社、学術雑誌の発行元に感謝する。

今後は本INTERGLADをご使用になり、ご意見・ご批判を頂き、より向上した第2版作成の手掛かにしたいと考えているので宜しく願います。次第です。